イエスの復活の意味を思い出しましょう

第1ヨハネの手紙5章1節～6節（新改訳；新訳426ページ、新共同訳：新訳441ページ）

5:1 イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。5:2 私たちが神を愛してその命令を守るなら、そのことによって、私たちが神の子どもたちを愛していることがわかります。5:3 神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。5:4 なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。5:5 世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。5:6 このイエス・キリストは、水と血とによって来られた方です。ただ水によってだけでなく、水と血とによって来られたのです。そして、あかしをする方は御霊です。御霊は真理だからです。

復活祭は過ぎましたが、イエスの復活は私たちの生活にいつまでも続く影響を与えます。今日学ぶ箇所はイエスの復活について直接語っていませんが、イエスの復活が私たちの毎日の生活に意味することを思い出させます。イエスの復活はイエスがいつまでも私たちと共にいること、私たちへの約束を果たすこと、そして主（神）が与えてくださるすべての祝福に対してクリスチャンはどのように反応すべきかを教えています。

Ⅰ．イエスの復活はイエスがいつまでも私たちと共にいることを思い出させます

6節に「このイエス・キリストは、水と血とによって来られた方です。ただ水によってだけでなく、水と血とによって来られたのです。」と書かれています。水によって来られたとは、イエスがバプテスマのヨハネから洗礼を受けたことを指しています。イエスには洗礼によって洗い流してもらうべき罪はありませんでした。イエスの洗礼はイエスが救い主の職務を公に始める就任式でした。その務めを果たすために、永遠の昔から真の神として存在していたイエスが私たちと同じ人間のからだを取りました。イエスはあなたや私を含むすべての人の身代わりとして神の律法を完全に守りました。完全にきよい生活を送ることはイエスの務めの一部でした。

また、イエスは血によって来られた方です。これはイエスが十字架の上で死んだことを指しています。イエスは十字架の死によって、つまり十字架の上で苦しみ、血を流し、自分の命を捧げることによって、イエスは私たちが犯した罪の代金を残らず神に支払いました。私たち罪人を永遠の死から救うためのイエスの公務は洗礼によって始まり、血を流すことによって完了しました。イエスの復活はイエスが真の神であること、イエスの約束が本当であること、イエスが私たちのために成し遂げたことが完全であることの証明です。イエスは人間のからだを持っていましたが、同時に神でもあったので、ただの人間には不可能なことを成し遂げることができました。イエスは罪と死と悪魔の力に勝利しました（ヘブル2:14,15）。

イエスは三日目の復活によって罪と死と悪魔の力に勝利しただけでなく、この世にも勝ちました。イエスが十字架に架かる前の晩に弟子たちに語ったことばを思い出しましょう。「あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」（ヨハネ16:33）。復活したイエスは圧倒的な勝利者です。そして、イエスの勝利は信仰を通して私たちの勝利となります。だからヨハネは、「世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。」と確信をもって書くことができました。

私たちの日々の生活にはしばしば困難が生じます。この世の出来事が私たちを飲み込んでしまうように見えて、どこに助けや慰めを求めてよいか分からない時があります。そのような時でも私たちは絶望する必要がありません。私たちが助けを必要とする時、復活したイエスが助けの手を差し伸べます。死の力を滅ぼしたイエスがいつまでも私たちと共にいて、私たちの益となるようにこの世のすべてのことを支配しているので、私たちはどんな時でも一人で悩む必要がありません。イエスが「わたしが生きるので、あなたがたも生きる」と私たちに約束したので、私たちは死に際しても助けを持っています（ヨハネ14:19）。

Ⅱ．イエスの復活はイエスが確実に約束を果たすことを思い出させます

イエスは栄光のうちに復活して、今も生きています。ですから、信仰の恵みとして罪が赦され、永遠の命が与えられたことを私たちは確信できます。イエスは復活して今も生きているので、約束を守ることができます。すべてのものの主であり、死を征服したイエスは、聖書と聖礼典を通して、霊的に死んでいる私たちの心に信仰を生まれさせる真理の御霊（聖霊）を送ります。また、聖霊は聖書と聖礼典を通して、毎日私たちの信仰を新しくします。

しかし、聖霊が私たちの心に信仰を生まれさせたことを私たちはどのようにして分かるでしょう。1節を見てください。「イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。」神によって生まれた人は神を愛するだけでなく、信仰の兄弟姉妹をも愛します。それが神の子どもであることの確かなしるしです。しかし、私たちはしばしば多くの罪や失敗に悩まされ、本当に信仰を持っているかどうか疑うことがあります。私たちはどれほどしばしば他人の罪や過ちを見るに早く、その一方で自分の罪を見逃すでしょう。私たちが誰かのうわさを聞く時、どれほどしばしば善意に考えないで、悪く考えるでしょう。

イエスが私たちを私たちの罪に従って取り扱わないことは何という祝福でしょう。復活したイエスは憐れみ深い主です。イエスが生きていて、毎日私たちの罪を赦してくれることは何という祝福でしょう。復活日の夕方に「平安があなたがたにあるように」と弟子たちに告げたことばを、イエスは私たちにも告げます。そのことばはとても重要です。平安という祝福は、聖書と聖礼典に見られる赦免のことばを通して私たちに与えられます。その赦免あるので、神が私たちを怒っていないことや私たちの罪を罰しないことを、私たちは確信できます。復活したイエスは毎日私たちに罪の赦しや平安を与えますが、それだけではありません。私たちが私たちの罪深い心やこの世の誘惑に勝てるように、またこの世の生活の悲しみや困難に打ち勝つことができるように、私たちに強さも与えます。

Ⅲ．イエスの復活は神を愛するように私たちを動かします

ヨハネは、「私たちが神を愛してその命令を守るなら、そのことによって、私たちが神の子どもたちを愛していることがわかります。」と言っています。神の子どもは神を愛するので、神の戒めを守ろうとします。神は戒めによって私たちの日常生活のための計画や思いを詳細に示します。戒めに従って生活することは神を喜ばせるだけでなく、信者自身の喜びです。ですから、ヨハネは「神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。」と言っています。ヨハネは何とすばらしい真理を語っているのでしょう。神の愛や神の祝福に対する感謝の心から戒めに従って生活することは、重荷とはなり

ません。

聖書からその実例を見ましょう。ルカの福音書19章1節から9節に、取税人のかしらであるザアカイの話が書かれています。イエスの時代の取税人はユダヤ人ですがローマ帝国のために徴税しました。そのため、ユダヤ人は取税人を裏切り者（売国奴）とみなしました。また、税金を集めること自体は罪ではありませんが、取税人たちは徴税額よりも多く集め、それを自分の収入にしました。そのため、取税人は同胞から罪人のかしらと呼ばれていました。ザアカイは金持ちでしたが、幸福ではありませんでした。

ザアカイはイエスのうわさを聞いていたので、イエスがエリコに来た時にどんな人か見ようとしました。しかし背が低かったので、群集がじゃまになって見ることができませんでした。そこで、ザアカイはイエスを見るためにいちじく桑の木に登りました。罪人といっしょに食事をして、取税人の一人を弟子として受け入れた方を、ザアカイは何としてでも見たいと思いました。［12弟子のひとりのマタイ（レビ）は取税人でした。］ザアカイは心が痛いほど自分自身の多くの罪を分かっていました。ザアカイは罪の呵責から救ってくれる人を必要としていました。そして、イエスなら救うことができると確信していました。

ザアカイは既に罪を悔い改めていたので、イエスは律法を告げませんでした。罪に苦しめられていたザアカイの心は福音、つまり、罪の赦しのメッセージを必要としていました。この惨めな男を慰めるために、イエスは「ザアカイ。急いで降りて来なさい。きょうは、あなたの家に泊まることにしてあるから。」と言いました。イエスの時代、誰かの家に泊まることはその人を受け入れることを意味しました。「きょうは、あなたの家に泊まることにしてあるから」と言うことによって、イエスは罪の赦しを宣言しました。イエスの宣言はザアカイの心から重荷を取り去って、平安と喜びで満たしました。

罪の赦しはザアカイの心を平安と喜びで満たしただけでなく、すばらしい信仰の実を生じさせました。ザアカイはイエスに言いました。「主よ。ご覧ください。私の財産の半分を貧しい人たちに施します。また、だれからでも、私がだまし取った物は、四倍にして返します。」これはイエスの命令ではありません。神の律法が要求することでもありません。むしろ、律法は「自分の犯した罪を告白しなければならない。その者は罪過のために総額を弁償する。また、それにその五分の一を加えて、当の被害者に支払わなければならない。」と言っています（民数記5:7）。なぜザアカイは律法が要求する以上のことをしたかったのでしょう。それはイエスの愛と慈しみに対する感謝の心から出た自発的な言動でした。この世のすべての宝よりも貴重なものを与えてもらったので、ザアカイはそうしたかったのです。ヨハネが今日の箇所で言っているように、そうすることはザアカイにとって重荷ではなく、むしろ喜びでした。

しかし、この罪深い世に生きている限り、私たちは罪に汚れます。この世の誘惑や私たちをイエスから引き離そうとする悪魔の力に打ち勝つために、私たちには復活したイエスの助けが必要です。復活した救い主とその約束から離れないようにしましょう。すべてを支配していて、すべてを私たちの永遠の益として働かせるイエスと私たちは信仰によって結ばれているので、苦難に直面しても絶望する必要がありません。私たちは希望をもって毎日を過ごすことができます。復活した主であるイエスが毎日私たちと共にいます。イエスは私たちの祈りを毎日聞いて、それに応えます。イエスが私たちの肉体と魂の必要を毎日備えます。たとえ世の人々から敗者に見えても、イエスに結ばれている私たちは圧倒的な勝利者です。復活したイエスは毎日私たちを助けます。ですから、私たちは混乱した世のただ中にいますが、復活したイエスのおかげで毎日が希望と平安の日です。